

2022年度北海道レフェリーアカデミー第1回(通算第11回) 事業報告書

[日時] 2022年4月29日(金)、30日(土)

[会場] 自宅、札幌ドーム、札幌サッカーアミューズメントパーク

[参加者] インストラクター：古曾部 統太郎 RAM、岡田 渉 RAI 今川 一輔 RAI、伊藤 真也 RAI

審判員：一瀬 哲平、岡 聖人、濱岡 優太、山口 麗弥

オブザーバー：HKFA 強化指定審判員(2日目フィジカルチェックのみ)

工藤 圭祐 氏、佐藤 知 氏、堀 悠雅 氏

[研修テーマ] アカデミー2年目を迎えた更なるモチベーションアップ

4月29日

9:40 集合 zoom 研修

§ I 「競技規則講義」

- ・映像を用いて、審判員でディスカッションを行った。
- ・映像内容：
主審のファウルの笛の直後、競り合おうとしていた A 選手が止まりきれず、ジャンプしていた A 選手の膝が B 選手の顔に当たってしまった。
- ・審判員意見：
インプレー中に同じ事象が起こったら、退場を命じるがアウトオブプレー中であったため、判断に迷った。警告や退場を命じることは可能だが、競技規則に則った時に何の理由で警告や退場を命じるのかが不明瞭であったため、当該選手には厳重注意で懲戒罰なしの判定。
- ・インストラクター助言：
警告や退場と感じたのであれば、提示すべき。アクシデントと捉えることはできる。競技規則を根拠にディスカッションしたことはよかった。

§ II 「今年度のテーマ決定」

- ・審判員でディスカッションを行い、今年度のテーマを決定した。
- ・2年目テーマ：「五常(仁・義・礼・智・信)～応援される審判員に～」
仁～人を思いやること。
義～なすべきことをすること。
礼～礼儀。
智～道理をよく知り得ている人。知識豊富な人。
信～誠実であること。
この五常を心がける事によって応援される審判員になりたいという思いを込めた。

13:05 観戦研修

- ・ 大会名 : 明治安田生命 J1 リーグ
- ・ 対戦カード : 北海道コンサドーレ札幌 vs 湘南ベルマーレ
- ・ 内容 :

「気づき」のテーマのもと、プロの試合を見る事によって上級審判員から多くのことを学ぶ機会となった。試合を見て気づいたことを審判員は2日目に発表することによって全体で共有した。

- ・ コメント :

普段何気なく映像で見ている J1 リーグであったが、目的を持って見ることでたくさんことに気づくことができた。今主審は何を考えたその位置にポジショニングをとったのだろうか、自分はファウルだと思った事象で主審がファウルとしなかったのには何か理由があるのだろうか、など様々な視点から気づくことができた。



15:10 解散

4月30日

9:40 集合 zoom 研修

§ I 「観戦研修振り返り」

- ・ 前日見た試合を元に、審判員は PowerPoint を用いて気づいたことを共有した。
- ・ 内容 (コメント) :

4名の審判員で共通して上がった項目は、動きとポジショニングについてであった。主審は予期予測を行い、常に全体が監視できる且つ争点により近い位置で監視を行っていた。これにより、正しい判定に繋がっていたと感ずることができた。

観戦テーマ 気づき

- ・ アップに関して
→ 主審はピッチを満遍なく周り芝の感触を確かめながら準備をしていた。
→ 副審は、ビジョントレーニングやアジリティを中心であった。
- ・ 主審と副審そして 4th の協力
→ 開始早々、湘南ベンチ前でのタッチジャッジに間があった。副審からは丁度選手と重なり見えにくいシーンであり、4th からのほうがよく見える場合は積極的にサポートするべきであった。
- ・ 主審の動き方 (ポジショニング)
→ 全体的に高い位置を取ったり幅を広くとり、展開に応じて距離を縮めたり幅を寄せたりしていた。自分との違いがはっきりわかった。セットプレーの時の位置取りは全体的に遠く感じた。
- ・ 主審のシグナル
→ タッチジャッジは差し違いないようゆっくりと、ファウルの際は笛を強くふきシグナルも素早くさかれていた。
- ・ 存在感
→ 体が大きいタイプではないが、コミュニケーションの取り方がさすがでジェスチャーが大きい。

気づいた点 (主審の動き)

- ・ 主審は常に全体が監視できるポジショニングをとっていた。
- ・ 先回りしていた。予測して事前に動き出していた。
- ・ 縦方向にまっすぐ走り、一気に距離を詰めていく場面とサイドに陥込んで角度を取る場面メリハリがすごかった。

観戦研修

- ・ 22' 66' 82'
動き、ステップ(バック、サイド)
- ・ 72' 85' 92'
マネージメント(GKへの、FK再開)
- ・ 2'
ホールディング → SPA? (カバーリング)

4月29日観戦研修振り返り

- 主審
 - ・ 全体的に広く視野を確保するためのポジションを取っていた。
→ そのため、首を下にふる必要はなく、必要最低限の回数であった。
 - コーナーキック等のセットプレーのときの立ち位置も例外ではなく、広く視野を取っていた。
 - ・ 28分、左に展開される際に左サイドのウィングの選手だけでなく、左サイドバックまで目を配り、展開への準備のため、情報を集めていた。
 - ・ シグナルがゆっくり堂々としていて、説得力があった。(それが裏目に出たシーンもあった)
 - ・ 少し後方であっても、フリーキックの位置について、要所要所でマネージメントしていたため、1点差の終盤においても、受け入れられていた。
 - ・ 85分の遅延行為の警告もそれまでに何度か笛を使って、キックを促すシーンがあったため、受け入れられていた。
- 副審
 - ・ コーナーキックなど逆サイドでのセットプレーの際、自身も見やすい位置につくため、少し後退していた。
 - ・ 22分のシーンなど、リードしてタッチジャッジするシーンは素早かった。
- 第4の審判員
 - ・ 事象が見えやすい位置・角度を取るため、常に動いて修正していた。

§ II 「physical 講義」

・ Warming-up の考え方についてというテーマで岡田 RAI の講義を聴講した。

・ 内容 :

何のために、どのような目的でウォーミングアップは行うのか。目的を明確にし、そのためにはどのような内容の運動を行うべきなのかを学んだ。ここでは大切な要素として次の6つが挙げられた。

1) Thermogenesis /2) General Mobility /3) Muscle Activation /4) Transit Mobility /
5) Dynamic Mobility /6) Build-Ups

これらを適切に組み合わせることで良いウォーミングアップを行うことができる。

しかし、この項目を必ず行わなければならないという訳ではなく、自分に合った方法で行うことが大切になる。

・ 2022 アカデミーの physical 合言葉は前年度の「超えろ」より、

『**超えろ～not keep up**』に決定した。

具体的には Yo-Yo test 50 本以上 (絶対条件) ・地域別平均 60 本とする。



13:00 physical check

・ 内容 :

Yo-Yo test / sprint test を行った。

・ 結果 :

Yo-Yo test 4名平均

49本

15:00 諸連絡・解散

